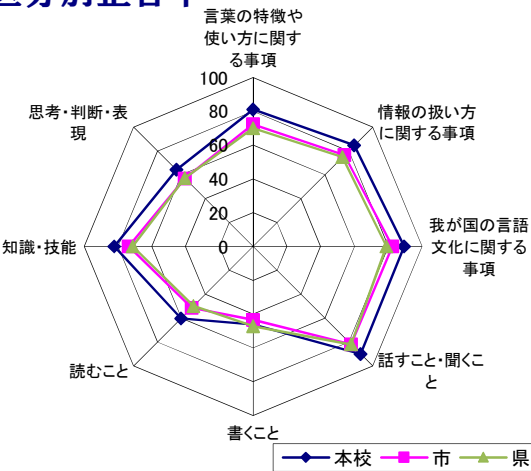


宇都宮市立今泉小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.1	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	84.7	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	89.4	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	90.0	81.9	82.0
	書くこと	46.2	43.5	47.2
	読むこと	60.2	51.4	49.8
観点	知識・技能	82.1	73.6	71.3
	思考・判断・表現	64.1	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

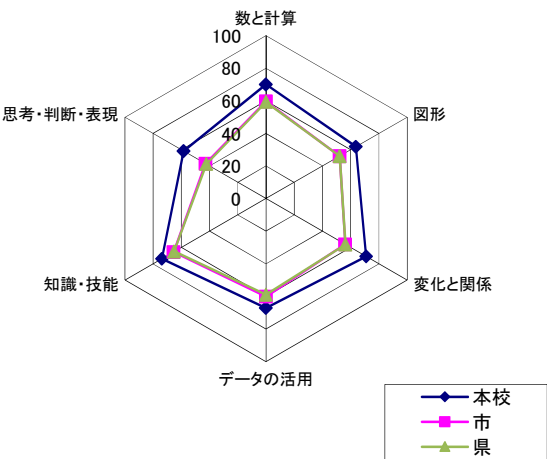
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を8.8ポイント、県の平均を11.1ポイント上回っている。 ○漢字を読む設問の正答率は、どれも95%を上回っており、十分に定着しているといえる。 ○漢字を書く設問の正答率は、76.5%～87.1%とばらつきはあるが、どれも県の平均を約25ポイント以上上回っており、よく書けているといえる。 ●修飾語についての設問の正答率は、18.8%であり、県の平均を3.5ポイント下回った。題意と逆の回答を選択した児童が多かった。	・課題が見られる点の状況から、修飾被修飾の関係の理解に課題があると考え。 ・作文指導において、修飾語の使い方を指導し、どの言葉がどの言葉に係るかを意識させる。 ・修飾被修飾の関係を指導する際には、一などを使って視覚的に捉えやすくする。 ・問題文をよく読んでから解答するよう、また、見直しを十分に行うよう声掛けをする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を8.3ポイント、県の平均を9.8ポイント上回っている。 ○漢字辞典の使い方の関する設問では、正答率が84.7%で、市の平均を9.8ポイント上回っており、漢字辞典の使い方を理解しているといえる。 ●漢字辞典の使い方に関する設問において、誤答で最も多く選択されていた選択肢は、漢字の部首の捉え違いであった。	・部首を学習した後は、新出漢字の指導においても部首について触れることで意識させていく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均を7ポイント、県の平均を10.5ポイント上回っている。 ○ことわざの活用に関する設問では、正答率が89.4%で、県の平均を1.7ポイント上回っている。 ●ことわざの活用に関する設問において、誤答で最も多く選択された選択肢は、題意との関連はあるが、題意に沿うものではなかった。	・ことわざの活用については、授業の中でことわざを使う場面を取り入れたり、自主学習等でことわざを活用した文例を考えさせたりすることで、児童が普段の生活で正しく活用できるようにする。 ・問題文をよく読んでから解答するよう、また、見直しを十分に行うよう声掛けをする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を8.1ポイント、県の平均を8ポイント上回っている。 ○話し手が話した内容を説明した文として適切なものを選ぶ設問では、正答率が95.3ポイントとなっており、学習内容が定着しているといえる。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかを見る設問では、県の平均を上回っているものの、正答率が8割程度と他の設問に比べると低かった。	・日頃の学習に意見を交流し合う活動を積極的に取り入れ、自分の意見を述べたり、相手の意見の大切なことや理由を正しく聞いたりすることを、繰り返し指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より2.7ポイント上回っているが、県の平均を1ポイント下回っている。 ○アンケートの結果から、2段落構成で文章を書く設問では、正答率が49.4ポイントであり、市の平均を8.7ポイント、県の平均を3.5ポイント上回っている。 ●指定された長さで文章を書く設問では、県の平均を4.4ポイント下回っており、課題が残る。	・教育活動全体を通して、考えたことを書いて記録する活動を取り入れ、書くことに慣れることができるようにする。 ・書いた文章を互いに読み合うなど、より伝わりやすく書こうとする意欲が高まる学習活動を意識的に取り入れることで、書くことの目的意識をもてるようにする。 ・指定された長さで文章を書くことができるように、作文用紙等を使用しながら、指定された条件の元、文章を書く活動を日頃の学習に取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を8.8ポイント、県の平均を10.4ポイント上回っている。 ○文章から必要な情報を読み取り、短答で表現する設問では、正答率が55.3%、80%であった。これは、どちらも県の平均を16ポイント以上上回っており、よく書けているといえる。 ●登場人物の性格について、叙述から読み取る設問では、正答率が県の平均を4.3ポイント上回るものの、43.5%と高いとはいえない。 ●説明的文章において、叙述を基に文章の内容を捉える設問では、正答率が県の平均を9.4ポイント上回るものの、42.4%と高いとはいえない。	・引き続き読書活動の充実と推進を図るとともに、物語文の学習では、人物の様子や場面の変化を叙述に沿って読み取りながら、読み深める活動を取り入れる。 ・説明的な文章では、段落構成を意識させながら、文章の詳細な内容を正確に読み取れるように、キーワードに着目するなどの指導の工夫をする。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.1	59.7	59.2
	図形	63.7	52.1	52.1
	変化と関係	70.9	56.1	56.3
	データの活用	67.1	60.1	58.9
観点	知識・技能	73.8	65.5	65.1
	思考・判断・表現	58.4	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

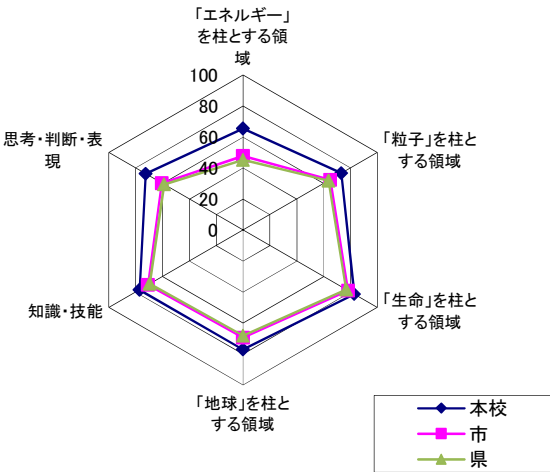
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を10.4ポイント、県の平均を10.9ポイント上回っている。 ○数直線の目もりが示す分数を読み取り、仮分数で表す設問では、県の正答率を21.7ポイント上回っており、数の仕組みを理解している児童が多い。 ●数量の関係について、目的に応じて正しく見積もっているものを選ぶ設問では、県の正答率を10.0ポイント下回っており、課題が残る。	・今後も算数の用語の理解を深めるために、数直線や図などを使い、可視化しながら指導をする。 ・基礎基本の定着を図るために、繰り返し問題を解いたり、既習内容を生かして考えたりする機会を多く設ける。
図形	平均正答率は、市、県の平均を11.6ポイント上回っている。 ○複雑な図形の面積の求め方についての設問は、県の正答率を18.8ポイント上回っており、長方形の面積の求め方を使って複雑な図形の面積の求め方を考えることができることを理解している児童が多いことが分かる。 ●面積の単位の関係についての設問は、正答率が44.7%と半数を下回っており、課題が残る。	・数量感覚を身に付けるために、身の回りの物の長さや重さの見当を付けるなど、普段から自分の生活と算数の学びを結び付けて考えられるよう指導する。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を14.8ポイント、県の平均を14.6ポイント上回っている。 ○どの設問も県や市の正答率を上回っている。 ○●「2つの数量の変化の割合を求める問題」では、市の平均ポイントを21.7ポイント、県の平均を24.8ポイント上回っていた。また、「伴って変わる2つの数量の関係について、表を見て説明できるかを問う問題」については、市の平均を22ポイント、県の平均を19.7ポイント上回っているが、正答率は44.7%と半数を下回っており課題である。	・2つの数量の関係を見比べ、変化の様子を見立てて考えることに対しては、理解が高く、今後も理解を深められるような指導を工夫していく。 ・伴って変わる2つの量を示した表の見方については、それぞれの横の関係の変化については説明できるのだが、縦の関係の変化はどのような関係があるか適切な式に表して考えることができるよう、式を立てるまでの流れを視覚的に示し、問題の指し示す意味や、求めるべき内容を児童が理解できるよう指導を工夫する。
データの活用	平均正答率は、市の平均を7ポイント、県の平均を8.2ポイント上回っている。 ○●どの設問においても市や県の正答率を上回っている。二次元表の読み取りに関する設問で、条件にあてはまる表の部分を選んで答えるという内容の正答率は84.7%と市の平均より4ポイント、県の平均より4.7ポイント高かった。しかし、二次元表の読み方で、実際に数値を入れて計算するなど、条件にあてはまる人数を答えるという設問の正答率は、市や県の平均よりおよそ15ポイント以上高かったものの、正答率は40%と低く、今後の課題である。	・データを活用する場面を日常の生活の様々な場面において取り入れていくようにする。具体的には、身近な題材をテーマに必要なデータを収集して表やグラフなどに表したり、その傾向を分析して、その傾向から課題を見付けたり、考えたりしていけるようにする。また、データの結果から、自分の意見を出したり、問題を解決したりしていくことができるような力を育てていく。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	65.5	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	73.2	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	82.8	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	77.1	69.5	68.1
観点	知識・技能	77.1	70.8	69.5
	思考・判断・表現	72.5	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を17.7ポイント、県の平均を20.2ポイント上回っている。 ○乾電池の繋ぎ方の名称や、電流が大きくなる回路を選ぶ設問では、市の正答率を大きく上回っており、電気の仕事についての基本事項を理解している児童が多いといえる。 ●簡易検流計の針の振れる向きとふれ具合は、電流の向きと大きさを表すことを理解しているかどうかを見る設問では、市の平均を大きく上回っていた。しかし、正答率は42.4ポイントと他の設問に比べて低く、課題であると言える。	・電気に関する学習に対して意欲が高い児童が多いので、実験において定着させるべき基本事項をしっかり押さえて実験に取り組ませ、理解を深められるよう指導していく。 ・簡易検流計の使い方や特徴について、事前にきちんと確認した上で実験に取り組ませ、理解の定着を図る。また、積極的に使う機会を設定し、5年生の電流計の学習につなげていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を8.3ポイント、県の平均を9.6ポイント上回っている。 ○夏は線路のレールに繋目がない理由を記述する設問では、市の平均を16.4ポイント上回っており、温度による金属の体積の変化を理解している児童が多いといえる。 ●水の温まり方を理解しているかどうかを見る設問では、市の平均を上回っているが、正答率は36.5ポイントと低く、課題である。	・金属の体積変化に関しては、実験の結果や考察から分かったことと日常生活での現象がしっかりと結び付いて理解できていた。今後も、実験・観察で検証して分かったことと身の回りで起こる現象についての関連を教師から補足説明するよう心掛け、科学的な見方を養っていく。 ・ものの温まり方の実験では、教科書の実験だけではなく発展的な課題として他の方法を試したり、動画を活用したりして、多面的に現象を捉えられるよう工夫する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を4.6ポイント、県の平均を6.0ポイント上回っていた。 ○ほねとほねのつなぎめでからだの動かすための役割を担っている部分を答える設問において、県や市の平均正答率を7ポイント以上上回っており、関節の役割について正しく理解している児童が多いといえる。 ●空欄に当てはまるサクラの様子を選ぶ問題では、県や市の平均正答率を上回っているものの、分野内での正答率では最も低く、課題が見られる。	・からだを動かすための部位やしきみについては、骨や関節についての理解は定着しているので、腕を動かすときの筋肉の様子と合わせて適宜復習し、5・6年のヒトの体の学習へ繋げていく。 ・植物の生命のつながりの学習で、植物の一生をまとめるときに、インゲンマメやヘチマなどといっしょにサクラなどの木の植物についても確認し、理解の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を7.6ポイント、県の平均を9.0ポイント上回っていた。 ○数時間後の星の並び方と見える位置について正しい文章を選ぶ設問では、正答率が9割を超えており、星の動き方を正しく理解している児童が多いといえる。 ●ペットボトルについた水滴が空気中の水蒸気であることを答える設問の正答率が、6割ほどであり、知識の定着が不十分な点が見られた。	・太陽や月・星の動き方については、動画やプラネタリウムなどの活用を促し、更なる理解の定着を図っていく。 ・水の状態変化については、今後の学習の中で関係する内容において、繰り返し復習する機会を設け、空気中の水蒸気存在や温度による状態変化に関する知識の定着が図れるようにしていく。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」と肯定的に回答した児童の割合は72.9%と、県の平均より7.6ポイント高い。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」と肯定的に回答した児童の割合も75.3%で県の平均より、10.5ポイント高く良好である。授業の復習やテストなどでまちがえた問題をやり直すなど、勉強の方法について、今後も継続して声を掛けていく。

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の設問に、肯定的に回答した児童の割合は98.8%で、県の平均より4.6ポイント高い。学習に対して前向きに捉える児童の割合が高いことが伺える。

○「授業を集中して受けている」について肯定的回答した割合は98.8%と高く、また「クラスは発言しやすい雰囲気である。」について肯定的回答をした割合はそれぞれ89.4%と、県の平均と比べ上回っていることから、本校では学習活動の中で、友達の考えをよく聞いて理解し、自分の考えを伝えながら学習することができていることが分かる。普段から授業に集中して取り組むことができおり、お互いの考えを交流したりする機会を設けている成果が表れていると考えられる。今後も、児童の興味・関心を高めることができるような学習課題を工夫していきたい。

○「毎日、朝食をたべている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」について肯定的回答をした割合はそれぞれ96.5%、88.3%でよい結果となっている。全員が達成できるよう、保健の授業などで生活習慣の大切さを指導し、保護者とも連携しながら大切さを伝えていきたい。

○「人と話すことは楽しい」、「自分は家族の大切な一員だと思う。」という設問に対して「はい」と答えた児童は80.0%と高く、それぞれ県の平均を上回った。家族や人とのコミュニケーションを大切に考えていることが伺える。

○各教科の内容の理解についてはどの教科も県の平均を上回っており、なおかつ、国語、社会、理科についてはよく理解できる、おおむね理解できるの割合が90%以上である。また、将来のために大切だ、おおむね大切だと思う教科については、国語、社会、算数、理科の主要4教科すべてで90%を上回っており、学習に対する本校児童の意識の高さが伺える。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の設問に肯定的に回答した児童は59.7%と、県の平均より、11.9ポイント下回っていた。自主学習の内容や方法など、児童が興味をもって学習に臨むことができるよう、今後も継続して指導をしていく。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は60%で、県の平均より、4.4ポイント低い。「ぎ間や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」に対する肯定的な回答の割合も63.6%で、県の平均より1.6ポイント下回っていた。勉強していく中で、分からないことは本で調べたり、一人一台端末などを利用して、積極的に調べていくことができるように指導していく。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問に肯定的に回答した児童は67%と、県の平均より9.3ポイント下回っていた。児童が興味をもちやすい発問を工夫したり、話し合う機会を増やしたりすることで、積極的に話し合いに参加できるように継続して指導していく。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」という設問に対して「はい」と答えた児童は50.6%で、県の平均を3.8%下回った。現在の社会状況や時事問題が自分の生活とつながっていることを考える機会を設け、興味・関心を高めていきたい。

宇都宮市立今泉小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
見通しをもって学習に取り組める授業デザイン「今泉モデル」を活用した授業を展開する。	児童一人一人が興味関心をもつことができる導入を工夫したり目的意識をもって頑張ることができるような目標や学習内容の設定を行い、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせたりする。また、考える時間を十分に確保することで、考えを深めたり広げたりできるようにする。授業の終末では、自らの学びを振り返る時間を確保できるようにする。	「授業の中で目標（めあて・ねらい）がしめされている」の回答はおよそ9割に達しているものの、学年間の差が大きいことから、児童が意欲的に学習に取り組めるような学習課題やめあてを意識して授業を展開していく必要がある。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」は、およそ9割の児童が肯定的回答をしているが、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答は8割を下回っており、自分の考えを積極的に伝えたり、友達と考えを共有したりする活動を苦手としている児童も多いことが分かった。自分の考えのもたせ方や授業内容に合わせた話し合いの仕方を様々な工夫し、意欲的に話し合いに参加できる児童の育成に努めていく。また、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定回答も8割程度に留まっており、児童が学びを振り返る時間を十分に確保し、できた・分かった喜びをもてる児童の育成に努めていく必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で自分の考えをまとめて書くことはむずかしい」の肯定割合の平均は、どちらの学年も6割程度と低かった。また、各教科の調査問題で、記述式の問題での無回答率が県の平均を上回っているものもあった。	自分の考えを分かりやすく書いたり、伝えたりする力を身に付ける。	各教科において、自分の考えを整理して書く活動を取り入れ、考える力や表現する力を高めていく。また、話し合い活動などを通して、友達の考えを聞いたり、自分の考えと比較したりする活動を通して、自分の考えに自信をもったり伝えたりすることへの楽しさを味わったりすることができるような授業展開を工夫していく。個人用パソコンも積極的に活用し、様々な形態で協働的に学ぶ機会を設けるようにする。